

ロズバーク
日本人
收容所
知事局
五月十日
月曜日
オニ八号

樞軸残兵半島に籠る

聯合軍の追撃を急ぐ
北河聯合軍本營祭表に據れば樞
軸軍切断に奏功せし英米佛聯合
軍は迅速にチニス首府並にピサチ
軍港を占據した米軍は首府北方
山岳に據り兵を調へてあるが英軍は
殊兵も首府南方十四哩地点まで
追撃した樞軸軍はキャツポボン半
島へ籠つた捕虜多く被我死傷者
夥しいといふ

米國空軍更に増加

今度はアソウ島爆撃
拳府國際通信は米國アラスカ空
軍の増強を報じ今までキスカ岬に
攻勢をとつてゐたが今朝はアソウ島
を爆撃した米國空軍の本據は
最近解禁したアソウ島であつて
キスカへ七十二哩アソウへ二百八十哩の距

離に在り回航爆撃に便であるといふ

高架索作戦事情

ノボロシタ軍港危し
昨日のモスカウコムニエニケは高架索
戦況赤露に利あるを報じクバン流
域の独逸兵はノボロシタ軍港を除く
の外は殆んど殲滅した今期接戦に於
て独逸飛行機撃墜数は九百台に
達した

フラツシエ一東

聯合軍戦果 別項アフリカ作戦で
聯合軍は既に五万の捕虜を收容したか
独逸将官三名が含まれてゐる
バラエモ爆撃 英米空軍は四百台
で編成してシシリ島のバラエモ軍港を爆
撃した

独逸バルカン警備 アソウ島爆撃
は独逸軍が陸統として希臘及ユーゴ
スラビア方面へ密集し始めた高はブルガ
リアは最近新兵器を独逸より輸入して
黒海の防備を事としてゐるか一説には土
耳古がブルガリアに宣戦せし結果であ
らうといふ

口英国王より祝電 アフリカ聯合軍

司令官アイゼンハウワーに對し優渥な
る英國王の感謝親電があつたが貴
官の功によつて英國のタンカーが耻辱の
仇を酬みぬれしことを深謝すといふた

ギゾー島の日米戦 ニューギョー
ビヤ島の心臓ギゾー島に屯する日本
船艦を空襲して駆逐艦二隻の甲板
へ真面に投弾したが沈没せしや否やを
見極めずと発表

タキシの争議 エルバソ市のタキ
シドライバーは去る金曜日から管轄
關係で澳着を始めた今日は政府側
で調停し始めたといふ

認識票紛失
レッドベター司令官が去る八月第二大隊
ゲートより農園へ行く途中で認識票
を落されたといふ、お拾ひになつた方
は知事局へお届け下さい

認識票は銅とニッケルの合金で縦一時
横半吋、姓名番號が刻まれていると
いふ

手紙の中味が間違つて居る
最近セロムセンターから来た手紙で修
子嬢よりお父さんに発信したものが弟
二大隊藥局の末岡氏の許へ届いてゐる
これはセンター局で末岡夫人からの手紙

と中味を間違へて入れたものらしいので
心当りの人は周氏と中味を交換されたい

尾立氏感謝寄附

一時重態のため危険なりと傳へられた
第五中隊尾立金三郎氏はドクタイの
懇切適宜の施療と友人並に隊
員諸氏の骨肉を及ぼし親切で快方
に向ひ命拾ひをした感謝の爲め夫二大
隊知事局へ金五奉記念寄附した

集會

今夕八時十中社交室にて「佛國口」
の靈泉と宇孫女史の食道療法全
治の近代秘学」講師川島富之助

朗道

俳壇

一行春
その一

行春や行くつとされぬ人の群 月熊
行春や浮屠用筆の指紋あと 紅雨
はかどらぬべんのかすれよ春惜しむ 無涯
行く春を日々にふえけり成鳥の群 青柳
行く春や雨りはなしたる戸口より 千久万
行春や沙漠の空を眺めつ、 如人
行春や黄鶯を高原に牛の声 一前
面会も金網敷しよ春は逝く 許春
粒々の花に別れぬ暮る、春 許春
行春や此の洞みし細き道 殊苔

第二次世界大戦よみ (二)

千九百四十年四月十三日日本露国中
立協約が成立し西国の署名が行
はれた。

四月十九日より五月三十一日に涉り英国
はイラクへ遠征軍を送り及乱軍を
鎮壓した。

五月十日独逸副總統ヘッス英國
飛行機で着陸。

六月一日英國クレト島を放棄する。

六月八日より七月十二日まで聯合軍
リヤを征服する。

六月二十二日ヒトラ露國攻撃を開始。

七月十二日英露共同援助を協約する。

七月七日米國アイスランドを占領。

七月二十三日日本は佛印を完全に掌握
する。

八月十四日ロズベルト大統領ケヨーサル
首相のマトランナツク憲章八ヶ條が祭
表される。

八月二十八日より至九月十一日イラン軍は
英米露聯合軍のため鎮定された。

当日の大統領は米國海軍に枢軸側
の艦隊を見付け次第撃滅せよと命
令を發す。

十月十六日より二十日まで獨軍オデッサを
攻撃陥落した一方獨軍はモスコの外

郊まで進撃し追々と傳へた此時オレルウヤ
ズマペンスキカリンの各都市を獨軍席
捲したので露國政府は各國外交團に東方
へ新首府を移動する旨を通知した。
十月十七日日本近衛内閣桂冠し東條
將軍を首相とする東條内閣が出現した
当日米國駆逐艦カーネー千六百三十噸
がアイスランド西南方三百五十哩の沖合に於
て魚形水雷を發射され破壊された。

○赤大根收獲 コンミニニテイ農園
では先週三日五クレイツ五八兩日に各六
クレイツ宛の赤大根を收獲した

誤れる祖先 (一五)

日系市民の二世と非市民の二世
が今ミニドカのぬかるみの中をこ
つたかして居る。此のヌカルミが
晋通のドコとは違つておてその
色は黒くしかも深くその上吸
ひ込む力を持つておる。ラベシ
エスを穿く者は新参者だけ
ある第一に此の恐ろしい事は
余りに深いのであるが更に困つ
たことは此のどろが自然の膠着
性を含んでおる爲めニ足三足
歩るとラバーシューズは忽ちど
ろに取られてしまふ程ぬはり

強いのであるからミニが移住
者中には老幼男女を問はず
特にラバーシューズやギヤロツシを買
求めた者が澤山ある
どろは固つたものであるには違ひ
ないがミニドカ移住者は雨が降
らぬ乾き切つた夏の砂ほこりよ
りは余程よいと言つて居る。ラ
ベシエスのポットランドとワレン
州のフヤラツブ両アツセンブリー
州のフヤラツブ両アツセンブリー
センターからの列車が去年夏
アイタホ州ハントに着いた時に彼
等移住者は不毛にして石だら
けでセージブラッシュの野原を凝

知事局改選と共に本社部署如左決定

- 新聞部長 小山 巖
- 編輯長 赤堀 最
- 編輯記者 草尾雄五郎
- 顧問 阿部豊治
- 有馬純雄
- 笠井健治
- 相賀安太郎
- 右及謹告候 中ハハク時報社

- 寄附 金巻帛 合田一郎氏
- 全 全八十五仙 浦田良太郎氏
- 全 全二帛 西本 肇氏

公 全二帛 大橋 若一氏

第二大隊知事局へ
右は八月五日掲載する豫定であつたが記
事が輻輳したので本日となつた
○追加八月知事局発表の農園勤務
者寄贈三帛中へ桑原園吉氏(六六
中隊)追加

○ピンポン臺の 行方

第七中隊の食堂へ据付けてあつたピンポン
卓が最近行方不明になりました心あた
りの方又は御使用中の方は其の旨を第
二大隊厚生機關者存までお知らせ下さい
第二大隊厚生機關

つと見つめた。然かし眼に映る
全ての景色は乾かられた野原
で、グリンの一點き
も見出す事は出来なかつた。
彼等の第一歩は一時の層をな
して粉のやうに細かく黄色いタ
ストの中に踏み込んだ。その一足
毎にタストは煙の如く噴き上
がる。然して彼等のホームで外
側がターペーパードで出来てあるバ
ラック建の敷多の避難所は
東西三哩に及んで居るがその上
空には恰も之を包むか如く雲の
やうにタストの煙が同じ込めぬ

る。そこで彼等は小切をしめて
自棄と心を覆ふ事を覚へた。
さうして彼等は一日中此の小切を
繰り返しく繰り返して居る。
又彼等は食堂へ行くと時はテ
ーブルの皿にたまつてあるタストを
拭くぬに紙を持ち行く事も覚
えた此のミニドカセンターの監督
官は夕方になると事務所から
グレイヘーの婦人がホームへ帰
て行くのを見ることが朝になると
同じ婦人が緑の黒髪で帰
ると来ると話して居た